

氏 名：青本 さとみ
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第 255 号
学位授与年月日：2024 年 9 月 17 日
学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）
副査 瀬戸屋 希（聖路加国際大学教授）
副査 糟谷 知香江（聖路加国際大学教授）
副査 田上 美千佳（千葉大学大学院教授）

論文題目：統合失調症をもつ人と暮らす家族員と共に、訪問で行う心理教育プログラムの開発 -診断を受けてから 10 年以内の時期の家族に焦点をあてて-

博士論文審査結果

審査における主な指摘は以下であった。

本研究は、精神障がい者と生活する家族員のリカバリーを促進するための家族心理教育プログラム（以下、プログラム）の開発を、アクションリサーチの手法を用い、当事者家族と協働して行うことを目的としている。プログラムは教材と実施マニュアルで構成され、訪問看護師が患者宅で用いることを想定し開発された。

審査委員会においては、発病して間もない統合失調症患者の支援に向け、当事者および当事者家族と共同した研究は意義深いとしながら、結果、考察の記述が不十分であり、論文全体の一貫性が乏しい点があるとし、修正点の指摘が以下のようにされた。

- (1) 統合失調症等の診断後、年単位で経過している事例を「診断後間もない」と表現することの妥当性について検討すること
- (2) 家族のリカバリーとプログラム評価は別内容であるため整理すること
- (3) 精神看護専門看護師である研究者がプログラムを実施したことを明示すること
- (4) 4 回のセッションでどのような変化があったのか、今の結果の記述では理解できない。事例を総括した結果の記述だけでなく、事例ごとの記述を加えること
- (5) 訪問看護師に向けた実施マニュアルの実現可能性を考察すること
- (6) 研究目的と研究テーマに齟齬があるので整理すること
- (7) 論文全体の論理の一貫性を確保すること
- (8) 誤字、脱字、わかりづらい文章の再考をすること
- (9) 図表、目次など、体裁を整えること

指摘事項に対し、短時間であり不完全な部分は残すものの、概ね主要な事項の修正が完了したことを確認するに至った。本研究は精神科疾患を有する者に対する訪問看護実践の質向上に大きく寄与する可能性を持つことを鑑み、今後のさらなる研鑽を期待する。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。